

第12回ペースメーカーフォローアップ研究会 プログラム

日時：平成 24 年 4 月 14 日(土) 9:50～16:25
受付：9:20～14:00
会場：ウインクあいち 5 階小ホール 1・2 およびホワイエ
参加費：3,000 円
後援：日本臨床工学技士会・愛知県臨床工学技士会

第1会場 小ホール1 (5階)

○10:00～11:00 教育セッション

「レートレスポンス」

司会：伊藤 朋晃（小倉記念病院 検査技師部工学課）

各社のレートレスポンス解説

1. セント・ジュード・メディカル株式会社
2. 日本メドトロニック株式会社
3. 日本ライフライン株式会社
4. ポストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
5. バイオトロニックジャパン株式会社

○11:15～12:30 一般演題 I

座長：山本 英樹（岡崎市民病院 臨床工学室）
小網 亮（康生会武田病院 臨床工学科）

- ① ペースメーカーフォローアップ業務における医師・臨床工学技士間での合意事項の明確化について
菊池 佳峰（大阪府立急性期・総合医療センター 臨床工学技士室）
- ② 病院移転と植込み型デバイス業務の変化
吉田 哲也（神戸市立医療センター中央市民病院 臨床工学室）
- ③ 当院の Implant Device 台帳システム
笹岡 俊介（済生会横浜市東部病院 臨床工学部）
- ④ エキシマレーザー心内リード抜去システムの使用経験
服部 哲斎（名古屋大学医学部附属病院 臨床工学技術部）
- ⑤ 当院で植込み型ループレコーダを植込みを施行した3例
熊谷 英明（昭和伊南総合病院 臨床工学室）

○12:45～13:45 教育講演 ランチオンセミナー A

「CRT を知ろう！～基礎から治療、モニタリングまで～」

講師：因田 恭也 先生

名古屋大学大学院 医学系研究科 循環器内科学

司会：古川 博一（手稲溪仁会病院 臨床工学部）

共催：日本光電株式会社

○14:00～15:00 一般演題 III

座長：山田 宜幸（三菱京都病院 臨床生理検査科）
杉浦 裕之（名古屋第二赤十字病院 臨床工学科）

- ① 心室性期外収縮(VPC)により MVP(Managed Ventricular Pacing)の不適切なスイッチングが引き起こされた一例
伊藤 大佑（倉敷中央病院 臨床検査科）
- ② 心房抗頻拍ペーシングにおける心房性不整脈停止効果のペースメーカー判定と目視判定との比較
朝原 康介（倉敷中央病院 CE サービス部）
- ③ 起立性失神予防に CLS ペースメーカー植込みを施行した1例
熊谷 英明（昭和伊南総合病院 臨床工学室）
- ④ 心室ペーシング閾値自動測定機能(VCC:Ventricular Capture Control)の評価
宮嶋 卓（済生会熊本病院 臨床工学部）

○15:15～16:15 一般演題 IV

座長：高橋 勝行（倉敷中央病院 臨床検査科）
関本 崇（医仁会武田総合病院 臨床工学科）

- ① 高除細動閾値症例に対して除細動パルス幅変更を使用した2例
早坂 啓（仙台循環器病センター 臨床工学科）
- ② 高K血症時にT波のダブルカウントが発現しATP治療によりVT,VFを誘発した1例
辻 善範（大垣市民病院 臨床工学技術科）
- ③ 不適切作動からみたSVT 検出強化基準の Rhythm ID と OBDE の選択
松崎 尚康（広島大学病院 診療支援部 臨床工学部門）
- ④ 各種方法にて心臓再同期療法に至適化を実施した1例
木田 博太（大阪府立急性期・総合医療センター 臨床工学技士室）

第2会場 小ホール2 (5階)

○9:50～10:00 開会挨拶

第12回ペースメーカーフォローアップ研究会 当番世話人
一柳 宏 (名古屋大学医学部附属病院 臨床工学技術部)

○10:00～11:00 シンポジウム

「自動フォローアップ機能をどう活かすか」
～本当に信頼できるの？マニュアルチェックはもう必要ない？～

司会：高垣 勝 (滋賀県立成人病センター 臨床工学部)
高橋 美恵 (青梅市立総合病院 臨床工学科)

- ① 自動フォローアップ機能は万能となり得るのか？
岡原 重幸 (広島大学病院 臨床工学部門)
- ② 自動測定機能による精度の検討
山本 英樹 (岡崎市民病院 臨床工学室)
- ③ 当院における植込み型心臓デバイスの自動フォローアップ機能の診断精度
熊谷 英明 (昭和伊南総合病院 臨床工学室)

○11:15～12:30 一般演題 II

座長：森井 淳夫 (滋賀県立成人病センター 臨床工学部)
今村 博明 (枚方公済病院 臨床工学科)

- ① ベプリジル、アミオダロンにて、心房ペーシング不全、心房静止を来した徐脈頻脈症候群の一例
佐生 喬 (三重大学医学部附属病院 臨床工学部)
- ② シベンズリン中毒によるペーシング不全をきたした1例を経験して
奥田 将 (永井病院 検査部)
- ③ メトロニック EnRhythm の電池性能に起因する不具合事象に関する当院の現状その対策
高橋 勝行 (倉敷中央病院 臨床検査科)
- ④ 心房感知不全が遠隔モニタリングでわからなかった症例
辻井 正人 (三重ハートセンター 臨床工学科)
- ⑤ 遠隔モニタリングにてリードディスロジを発見できなかった1例
大隅 佑介 (聖隷三方原病院 CE室)

○12:45～13:45 教育講演 ランチョンセミナー B

「不適切ショックを減らす工夫」
講師：三橋 武司 先生
自治医科大学 循環器内科学

司会：高垣 勝 (滋賀県立成人病センター 臨床工学部)
共催：ポスطن・サイエンティフィックジャパン株式会社

○14:00～15:00 ワークショップ

「ショックリダクションケーススタディ」
～不適切作動をどう減らす？～

司会：井野 裕也（京都桂病院 臨床工学科）
木田 博太（大阪府立急性期・総合医療センター 臨床工学技士室）

- ① 上室性不整脈鑑別機能により治療が行われなかった Slow VT の一例
原 季実子（名古屋大学医学部附属病院 臨床工学技術部）
- ② AF 誤作動が頻発した症例の shock reduction
森井 淳夫（滋賀成人病センター 臨床工学部）
- ③ 「Shock Reduction」を考えた症例
伊藤 朋晃（小倉記念病院 工学課）

○15:15～16:15 シンポジウム

「遠隔モニタリングー長ー短」
～長所を最大限に活かして負担増をスマートにかわす～

司会：一柳 宏（名古屋大学医学部附属病院 臨床工学技術部）
竹中 祐樹（岡山大学病院 ME 機器センター）

- ① ペースメーカーのみ実施している施設における遠隔モニタリングシステムー長ー短～現状と今後の展望～
長見 英治（千葉労災病院 臨床工学部）
- ② 当院のデバイス外来における遠隔モニタリングシステムの取り組み
久田 政一郎（豊橋ハートセンター 臨床工学科）
- ③ RMS (Remote Monitoring System) におけるアラート送信の重要性
堺 美郎（済生会熊本病院 臨床工学部門）

○16:15～16:25 閉会挨拶

第12回ペースメーカーフォローアップ研究会 当番世話人
一柳 宏（名古屋大学医学部附属病院 臨床工学技術部）

第13回ペースメーカーフォローアップ研究会 当番世話人
山本 英樹（岡崎市民病院 臨床工学室）